

じんせい あゆむ
仁成 歩 さんの概要(成人期)

1歳半健診で言葉の遅れを指摘され、2歳児健康教室で改めて相談し、その後本人は児童発達支援事業所の利用を開始。

弟が生まれたことで父母の関心が弟に向かうようになる。小学校の知的障害児学級へ入級する。中学も同様。

小学校入学以後は家族の協力により、放課後は家庭内で見えてきたが、学校生活を送る中で、子ども集団の中で成長してきている様子を感じ場面に合った行動を学んで欲しいと放課後デイの利用を開始。その後特別支援学校高等部に通い寄宿生活を体験、卒後は自宅に戻り家族は入所施設を希望したが支援区分が3である事や本人の希望で地元の福祉サービス事業所(通所型、生活介護と就労B型の多機能型)の生活介護を利用開始。その後、B型の利用者を見て「自分も仕事をしてみたい」との希望から就労支援B型へサービスを行う事となった。

家族構成：父、母、本人、弟の4人家族 祖父母、親戚は他県在住で支援は望めない。

父は持病持ち、入院をした時もある。

父母は弟に依存傾向がだんだんと強くなっていて積極的に関わろうとする事は無い反面、弟さんは関わろうとする気持ちはあるがどう関わって良いかわからず、自分に出来る事で兄に出来ない事には厳しい。

父と母の対応の仕方、子育て方針の違いがあり、母は厳しくしたいタイプ、父はまあまあというタイプ。

障がい診断等：自閉スペクトラム症、療育手帳 B2 支援区分 3

言語、学習程度：

会話のやり取りは困難(単語のつなぎ合わせで成り立つ)

☞成長・児童発達支援により短くわかりやすい文章が理解できるようになり会話もその程度は可能 18歳時で小学1～2年☞現在は4～5年生程度までなら可能となった。学力的には小学校低学年程度。

特徴と成長の変化：

集団生活は苦手☞事前の予告があれば徐々に関わっていけるようになった。操作方法が分かっている範囲での携帯等は機器の使用は可能、(ADL、IADLもその範囲) 学習をしたものについての間違いは無いが応用や置

き換えるという考え方が苦手である。

例：決まった電車には乗れるが時間やルートを変える事は苦手など。

事業所の概要

生活介護(通所型定員20名職員数4名)と就労継続支援B型(定員10名職員数3名)の中小規模の多機能型事業所

生活介護事業と就労継続支援B型とは共有場所(食堂・トイレ・事務所等)を中心に左右に分かれている。

生活介護事業は機能訓練と作業訓練の組み合わせのプログラムを行っている。アルミ缶の回収と、つぶしが主な作業。

(作業訓練の工賃は無く余暇等のおやつ代等に充てられている)

就労継続支援B型事業は主に企業からの受託作業だが近所の農家さんへのお手伝い、施設外就労として老人ホームの掃除があり、外に出かけていく時が週に1回半日程度ある。

事業所内作業は箱折、シール貼り、乾物の袋入、電気部品のネジ止め
工賃は事業所内で1万から1万3千円程度(施設外中心の場合2~3万程度)

事業所の周辺環境は農地(主に水田が多い)で平坦な立地条件、通勤環境は最寄駅からは徒歩15分、循環バスは事業所前にバス停がある。

事業所送迎はあるが、B型の利用者には自力通所を推奨している。

(行政の通所補助制度あり)